

面積中ヲ限り候處或ハ其區域ヲ濫出致候者モ有之哉ニ相聞甚以不都合之儀ニ候條心得違無之様注意可致若シ今後右様ノ所業有之者ハ直ニ坑業ヲ禁止シ其坑區券引上ノ處分ニ可及且試掘借區等出願許可ヲ得ント欲スルモノハ其坑區ノ境界判然候様豫メ標木ヲ建設シ地方廳於テ檢査可致旨今般工部卿ヨリ達シ相成候條此旨布達候事

但從來允許ヲ受ケシ試掘借區等ノ個所モ悉皆本項後段ニ準據シ標木建設致シ置クベク追テ主務官ヲ派遣實地檢査セシムベキ事

○甲第六拾六號 四月廿七日

明治十五年(九月)甲第貳百九號布達地籍編纂規則中左之通更正候條此旨布達候事

一第四章第貳條ノ冒頭ニ地籍牒ニハノ五字ヲ加ヘ本地ノ外書ニナシ

タルモノハ下ニ別ニノ二字ヲ各種ノ二字ニ改ム

一全第三條冒頭ニ一耕地又ハ一字限表中ノ十字ヲ加ヘ揭示場等ノ下ヘ各種ノ二字ヲ挿入ス

一第八章第貳條

每一ケ年ノ改正ハ毎年一月一日ニ起リ三月三十一日ニ畢ル即チ前年一月一日ヨリ其年十二月三十一日迄ノ土地變換ヲ簿冊上ニ於テ查閱シ或ハ實地ニ就而檢査スルモノトス

○甲第六拾七號 四月廿六日

鑛山坑業人本資金無之密ニ外國人等ヨリ借金ヲ引當ニ相稼又ハ其實坑業ヲ他人ニ譲リ内々收稅ヲナス者ハ坑區券引上ノ處分ニ可及旨兼テ工部省ヨリ達ノ次第モ有之候處近來右等ノ惡弊ヲ生レ或ハ密ニ年

限ヲ定メ賣買ヲナシ或ハ出鑛高幾分ノ收稅ヲ以貸渡居候者モ間々有之趣相聞甚不都合之所業ニ付斷然御處分可有之候條心得違無之様可致此旨布達候事

●甲第六拾八號 五月一日

郡長委任條件中第七十三條ヲ刪除 (原澤訂正)

○甲第六拾九號 五月一日

明治十三年(五月)甲第貳拾六號ヲ以テ郡町村名稱及組合之儀及布達置候處右之内左ノ村今般分割新稱候條此旨布達候事

久米郡梅本村分割
〔南梅本村
北梅本村〕

●甲第七拾號 五月一日

郡長委任條件中第三拾七條第四拾四條第四拾五條ヲ刪除シ第四十七

條更正 (原達訂正)

○甲第七拾壹號 五月四日

巡查配置請願規則左之通相定メ候條自今該手續ヲ以願出ツヘン此旨布達候事 (但現今許可候モノニシテ本年七月以后繼續ノ分ハ本文ニ準シ更ニ願出ツヘン)

巡查配置請願規則

第一條 銀行又ハ諸會社又ハ町村協議或ハ人民一己ヨリ其費用ヲ納

メ巡查ノ配置ヲ請願スルモノハ左ノ條項ニ依リ縣廳ヘ願出ツヘン

第二條 前條請願書ニハ巡查人員配置ノ場處及其年限ヲ詳記スヘン

第三條 巡查一名ニ付一ケ年ノ費用概テ初年ハ金百四拾圓次年ヨリ

金百貳拾圓年(度境ニ於テハ増減スルコトモアルヘン)ノ豫算ヲ以毎

年六月十二月廿日限り兩度ニ所轄警察署へ前納スヘシ

但年度中途ヨリ出願ノモノモ本文金額ノ割合ヲ以上納セシムト

雖前納方法ハ其時々相違スヘシ

第四條 請願配置ノ場處分署交番所ノ外ナルカ又ハ別段交番所ノ設

置ヲ乞モノハ家屋ハ素ヨリ備品消耗品等一切ノ費用ハ請願者ヨリ

現品ヲ以供辨スヘシ尤此場合ニ於テハ第三條一ケ年ノ費用ハ概テ

金百拾圓ノ豫算ヲ以前條全様相納ムヘシ

第五條 前條費用ハ一週年度(前年七月ヨリ翌年六月迄)ヲ以精算ヲ

爲ス故ニ年度經過後決算ノ上過剩金ハ返附ス不足アルキハ速ニ相

納ムヘシ

第六條 晝夜一名宛常請ヲ要スル者ハ二名ヲ以輪番勤務セシムルニ

付二名分ノ費用ヲ納ムヘシ以上數員ヲ要スルモ此例ニ依ル

第七條 請願許可ノ後雖トモ第三四條ノ辨出金前納ヲ怠ルキハ巡查

ノ派出ヲ見合スベアルヘシ

第八條 請願ノ向期限内止ヲ得サル事故アリ廢止ヲ乞フモノ及延期

ヲ出願スルモノハ遅クモ日數三十日以前ニ其旨願出ツヘシ

第九條 前條廢止ヲ出願ノ節萬一其期限ヲ過クルキハ廢止迄ノ費用

ハ相納ムヘシ

○甲第七拾貳號 五月四日

客年第五十壹號布告賣藥印紙稅之義ハ官吏出張之上隨時檢査爲致候

條此旨布達候事

○甲第七拾三號 五月四日

第二三類酒造石高及非常損害酒共自今當廳官吏ヲ派遣シ検査爲致候
條右ニ係ル事件ハ總テ同官へ申出ヘシ此旨布達候事

但検査官ノ巡回先不明ナル時ハ所轄郡役所へ申出ヘシ

●甲第七拾四號 五月二日

本年通常縣會議事結了ニ付本日閉場式施行候條此旨布達候事

○甲第七拾五號 五月九日

本縣小形旅客汽船取締規則第四章第二十一條中乘客中變死又ハノ下
(犯罪或ハ其款ヒアルモノ)トアルヲ(犯罪ノ款ヒアルモノ)ト改正ス
右布達候事

○甲第七拾六號 五月九日

明治十四年本縣甲第二百八十二號布達違警罪目ヲ中へ左ノ一項增加

シ本月廿日ヨリ實施ス

右布達候事

第五十三條 汽船問屋并ニ旅館屋渡世ノ者ニシテ客引案内者等ヲ出

シ強テ旅客ヲ誘ヒ又ハ詐言等ヲ用ヒ他人ノ營業ヲ妨害シタル者

○甲第七拾七號 五月十六日

賣藥營業人并ニ受賣人ニ於テハ左ノ帳簿ヲ製シ置キ派出官吏ノ検査
ヲ受クヘシ(但本年ノ儀ハ一月一日ノ現在數及ヒ同日以後此布達到
達迄ノ分ハ惣數ヲ以テ記入シ且此度ニ限り受取人ニ於テモ印紙買入
帳ヲ製スヘシ

右布達候事

賣藥營業人

一藥品原素買入并ニ使用帳

是ハ賣藥ノ用ニ供スル原素藥名限リ買入高及ヒ使用ノ斤量共其都度登記スルモノトス

一藥劑製造帳

是ハ藥劑ノ名稱限リ製造ノ個數ヲ其都度登記スルモノトス

一藥劑賣渡帳

是ハ藥劑ノ名稱限リ賣渡ノ個數日メヲ以テ登記シ受賣人へ渡シタル分ハ其受賣人住所姓名ヲモ記入スルモノトス

但行商人へ渡シタル分モ此帳簿ニ記入スヘシ

一印紙買入帳

是ハ印紙ノ種類限リ其枚數ヲ買入ノ都度登記スルモノトス

賣藥受賣人

一藥劑買入帳

是ハ藥劑ノ名稱限個數及製藥人住所姓名共買入都度記入者トス

○甲第七十八號 五月廿四日

荒地免稅出願手續自今左之通相定ム

右布達候事

荒地免稅出願手續

第壹條 天災ニ罹リ荒地トナリタルハ一筆限步數及荒地ノ名稱ヲ詳記シ且荒地ニ係ル地盤并接續ノ地形マヲ詳細ニ畫キ荒地ト生地ト色分ケシタル畫圖面ヲ添附シ別紙甲號雛形ニ倣ヒ出願スヘシ

第二條 前條出願ノ節ハ實地ヲ丈量シ其損害ノ輕重ト起返リノ難易

等ヲ量リ十ヶ年以内ヲ以相當免稅年季ヲ記載シ差出スヘシ

第三條 一筆中幾部分荒地ニナリタル時地價地租ヲ算出スルニハ先ツ損害ヲ免レタル生地ノ反別へ反價金ヲ乘シ地價ヲ得而シテ法ノ如ク地租ヲ算出シ、
 〔地價地租トモ四捨五入シテ厘位ニ止ム〕
 以テ一筆ノ全額ヨリ引去リ其殘額ヲ以荒地ノ地價地租トスヘシ

第四條 荒地年季中再荒トナリタルキハ第一二條ノ手續ニ準シ再荒トナリタル年ヨリ更ニ相當ノ免稅年季ヲ記載シ乙號離形ニ倣ヒ出願スヘシ

第五條 季明ニ際シ事故アリ起返リ賦稅ノ場ニ至ラサルキハ丙號離形ニ倣ヒ滿季ノ年(則チ季明ノ前年)十二年十五日期限出願スヘシ

〔全筆例地成ノ事〕
 一筆中幾部分荒地免稅年季中ニ殘生地ノ分又荒地トナルキハ例
 〔一筆中幾部分荒地成ノ例〕

甲號		荒地免稅年季願		地元何部何町		〔印朱字〕	
地番	地目	損壞名稱	反別	地價	地租	免稅年季	
何々番	田	川欠	何畝何歩	何圓何錢	何錢何厘	何年ヨリ何ヶ年	
何々番	宅地	川成	何畝何歩	何圓何錢	何錢何厘	何年ヨリ何ヶ年	
何々番	畑		外何畝何歩	何年ヨリ何年中	何年マ		
何々番	荒地		何畝何歩	何圓何錢	何錢何厘	何年ヨリ何ヶ年	
何々番	山崩		何畝何歩	何圓何錢	何錢何厘	何年ヨリ何ヶ年	
何々番	殘生地		何畝何歩	何圓何錢	何錢何厘	何年ヨリ何ヶ年	

右ハ本年何月何日何々(何川洪水其他事由ヲ記載ス)ニ仍テ損害相成候ニ付實地御檢査之上前書之通免稅年季御許可被成下度別紙圖面相添此段奉願候也

年月日

何郡何村

地主 何ノ某印

右地元町

戸長 何ノ某印

縣令宛

郡長與書成規之通

全筆再荒ノ
例一筆中幾分
再荒トナリ
タルトナリノ例

乙號	再荒地年季願		地元何郡何村	
	地目	元損壞再損壞	反別	元年季再荒年季
何々	畑	石砂入	何畝何歩	何年迄何ヶ年
何々	田	山崩	何畝何歩	何年迄何ヶ年
何々	山崩	石砂入	何畝何歩	何年迄何ヶ年
何々	山崩	山崩	何畝何歩	何年迄何ヶ年
何々	何々	何々	何々	何々

右荒地年季中ノ處本年何月何日何々
〔何川洪水其他〕ニ仍テ前書之
 事由ヲ記載ス
 通再荒相成候間實地御檢査ノ上更ニ免稅年季御許可被成下度別紙圖
 面相添此段奉願候也

年月日

何郡何村

地主 何ノ某印

右地元町

戸長 何ノ某印

縣令宛

郡長與書成規ノ通

丙號		荒地免稅繼年季願		地元何郡何町	
地番	地目	荒地名稱	反	別	元
何々	田	川	何畝何步	何年	何年
何々	畑	石砂入	何畝何步	何年	何年
何々				何年	何年
「外」何畝何步		「季明起返」分			

右ハ明治何年満季ノ處何々(起返ラサル事由ヲ記載ス)ニ仍テ未タ起返リノ場合ニ至ラス候ニ付實地御檢査ノ上前書之通繼年季御許可被成下度此段奉願候也

年月日
 何郡何町
 地主何ノ某印
 右地元町
 戸長何ノ某印

縣令宛

郡長與善成規ノ通

○甲第七拾九號 五月二十三日

明治十四年(七月)本縣甲第百十五號布達中(滿季翌年一月三十一日限)トアルヲ滿季ノ年十二月十五日限リトシ及離形中(本年季明ニ付)トアルヲ本年滿季ニ付ト更ム

全年(十一月)同甲第二百二十九號布達中(滿季翌年(則季明ノ年)一月十五日限)トアルヲ滿季ノ年十二月十五日限リトシ及離形中(當明治何年季明ニ付)トアルヲ本年滿季ニ付ト更ム

全十五年(三月)同甲第七十三號布達中(滿季翌年(即季明ノ年)一月十五日限)トアルヲ滿季ノ年十二月十五日限リトシ及離形中(當明治

何年季明ノ處)トアルヲ本年滿季ノ處ト更ム
右布達候事

○甲第八拾號 五月廿五日

聯合町村學務委員事務要項左之通相定ム
右布達候事

聯合町村學務委員事務要項

町村立中學校若クハ師範學校若クハ小學教員講習所等ヲ設置スル聯合町村内ニ置ク所ノ學務委員ハ其事務一切ヲ幹理スル者トス因テ其要項ヲ定ムルト左ノ如シ

- 第一項 學校設置廢止分合移轉ノ事
- 第二項 聯合町村ノ學區域ヲ分合スル事

第三項 學校等ノ諸規則ヲ創定改正スル事

第四項 學校等諸職員ノ數及其俸額ヲ定メ且既ニ定メタル者ヲ改正スル事

第五項 學務委員人員及給料旅費職務取扱費ノ額ヲ定メ且既ニ定メタル者ヲ改正スル事

第六項 學校等ノ諸職員ヲ慰勞スル事

第七項 學校等ノ建築又ハ建物増減ノ事

第八項 學校等ノ土地建物ヲ賣却シ及之ヲ他ニ貸付スル事

第九項 學校等ノ教育ニ關スル集會ヲ設クル事

第十項 學校等ノ經費ノ豫算ヲ定メ且既ニ定メタル者ヲ改正スル事

右各項ハ縣令ノ認可ヲ經ヘレ

第十一項 學校等ノ生徒ヲ獎勵スル事

第十二項 學校等ノ資産増殖ノ方法ヲ立ル事

第十三項 學校等ノ授業料等ノ取否ヲ定メ及之ヲ増減スル事

第十四項 學校等ノ爲メニ土地建物ヲ買入ル事

第十五項 學校等ノ職員〔教務ニ關セサルモ〕ヲ雇入及之ヲ解雇シ且俸

給定額内ニ於テ之ヲ増減スル事〔但設置ノ節ニ定メテ

ル俸額ヲ將來變換セントスル中ハ此限ニアラス

右各項ハ縣令ニ開申スヘレ

第十六項 學校等教授上ノ利害得失ヲ視察スル事

第十七項 學校等ノ圖書器械校簿ノ整備校舍ノ適否ニ注意シ且之

ヲ監督スル事

第十八項 學校等諸職員ノ品行及能否勤惰生徒行狀ノ良否ヲ視察

シ其品行勉強等衆人ニ超越セル者ヲ具申スル事

第十九項 學校等ニ關スル篤志盡力ノ者ヲ具申スル事

第二十項 學校等ニ關スル寄附金穀等ノ件ヲ調査スル事

第二十一項 學校等諸職員ノ任免進退及月俸ニ係ル件ヲ申請スル事

但傭ノ名義ヲ以テスル者ハ郡長ノ認可ヲ經テ縣令ニ

開申スヘシ

第二十二項 學校等諸職員旅行ノ件ヲ調査スル事〔但教員ノ補助タ

ル者〔中學校ハ助手雇〕及教務ニ關セサル職員〔準等

ノモ〕〔等余ハ右ニ準ス〕旅行ハ適宜之ヲ處分シ十五日以上ニ及フキハ之

ナ郡長ニ開申スヘシ

第廿三項 學校等諸職員病故引繼ノ件ヲ承諾シ十五日以上ニ及フ

※ハ之ヲ郡長ニ開申スル事

第廿四項 學校等諸職員除服出校ヲ郡長ニ申請スル事

第廿五項 學校等ノ經費ヲ豫算ノ金額ニ照シ遺拂フ事

第廿六項 學校等ニ係ル諸表簿ヲ調製スル事

第廿七項 學校等ノ敷地免稅ノ件ヲ請願スル事

第廿八項 學校等ノ敷地請願ノ事

第廿九項 學校等ノ臨時休業ヲ郡長ニ申請スル事

但十日以内ハ之ヲ處分シ郡長ニ開申スヘシ

第三十項 聯合町村會ニ付スル學校等ニ係ル議案及其評決ヲ原案

發付者 (郡長若クハ戸長) ト商議スル事

第卅一項 學校等ノ事件ニ關スル諸申牒ニ連署若クハ奥印スル事

右各項ハ專行スルヲ得ヘシ

右各項ノ内第一項第二項第四項第五項第七項第八項第十項第十二項

第十四項ハ聯合町村會ノ評決ヲ經且其事業ハ原案發付者 (郡長若ク

ハ)ニ協議シ教育令ニヨリ之ヲ執行スル者トス

○甲第八十一號 五月廿五日

明治十四年十月甲第二百四號布達學務委員薦舉規則ヘ左ノ通追加ス
右布達候事

學務委員薦舉規則追加

第十三條 小學校設置區域ノ外數町村聯合シテ中學校若クハ師範學

校小學教員講習所等ヲ設置スルトキハ特ニ其區域ニ學務委員ヲ置キ學務ヲ幹理セシムルヲ得ヘシ

第十四條 前條ニ關スル規則ハ第一條ヨリ第十二條マテヲ適用スル者トス（但戸長ハ其員ニ加ヘス且第一條但書學務委員ノ廉ハ郡長諸ヲ掌リ第三條ノ薦舉人ハ聯合町村會員ヲ以テ之ニ充ツル者トス

○甲第八拾貳號 五月廿五日

町村立中學校若クハ師範學校若クハ小學教員講習所ヲ設置セントスルトトキハ學務委員ノ要否（之ヲ要スレハ該人員及ヒ諸費等）及區域等ハ聯合町村會之ヲ評決シ原案發付者ニ於テ豫メ縣令ノ裁定ヲ乞フヘシ

右布達候事

○甲第八十三號 五月三十一日

明治十五年（二月）甲第三十號布達學校教員品行檢定規則第一條中左ノ通増加ス

右布達候事

第一款懲役云々ノ上ニ（舊法ニ依リ）ノ五字ヲ加フ

第四款ノ次ニ左ノ一款ヲ加フ、

第五款新法ニ依リ輕重禁錮以上ノ刑ニ處セラレ若クハ信用又ハ風

俗ヲ害スル罪ヲ犯シテ罰金ノ刑ニ處セラレ若クハ監視ニ付セラレタル者（但信風俗ヲ害スル罪ニアラサルモノヲ犯シ罰金ヲ納ムルヲ能ハスシテ輕禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ハ此限ニアラス

○甲第八拾四號 六月二日

明治十四年(六月)甲第百十二號布達郡醫配置方法本年七月ヨリ左之
通改定ス

右布達候事

一 郡役所管内配置人員五名以下トシ其人員及受持部ノ割當等ハ郡
長ノ意見ニ任ス(但人口十万以上ノ郡ニアリテハ定員外三名以下
ノ増置ヲ許ス

●甲第八拾五號 六月二日

諸官省布告達書并本縣布達々告示報告類地方稅ヲ以支辨スヘキモノ
頒布方明治十四年(一月)甲第百十九號ヲ以及布達置候處今般左ノ一
項ヲ追加ス
右布達候事

一 官省布達々書之内衛生上ニ關係之事件各町村戸長役場ト分離設置
之衛生委員并ニ各郡醫及各公私立病院へ壹部宛

○甲第八拾六號 六月四日

耕地一筆内ニ孕メル草生地木生等ヲ開墾セントスルモノハ本年本縣
甲第二號布達ニ據リ出願可致尤地價修正願書反別書載方ノ義ハ左ノ
通相心得ヘシ(但多分ノ費用ヲ要シ餘下年季ヲ付與セサレハ開墾ス
ル能ハサルモノハ其實事ヲ詳察シ野取圖相添當廳へ願出ヘシ
何國何郡何村地番字

「印朱字

「元地目反別何程

「内反別何程

「草生地其他何々

「此地價金何程

「此地租金何程」

「此元地價金何程」

「此地租金何程」

地主

一現地目反別何程

何ノ某

内反別何程

田或ハ畑ニ開墾ノ分

内反別何程

丈量増

此修正地價金何程
地租金何程

比準何番地
反金何程

此地價金何程

此地租金何程

○甲第八拾七號 六月六日

明治十五年(二月)甲第三拾號布達學校教員品行檢定規則之義ハ學校

長ヘモ適用ス

右布達候事

○甲第八拾八號 六月六日

傳染病患者届出手續別紙之通改正來ル七月一日ヨリ施行ス

但從前達指令等之レニ抵觸スルモノハ同日限リ廢止ス

右布達候事

傳染病患者届出手續

第壹項 醫師傳染病ヲ診察スルルハ速カニ別紙甲号届書用紙離形壹

印ノ箇所ヘ記入シ患者所在ノ衛生委員ヘ差出スヘシ

第貳項 衛生委員前項ノ届書ヲ受クレハ別紙離形三及ヒ四ノ記號ヲ

ルニケ所ヘ謄寫シ其寫一片ヲ留置キ他ノ一片ハ最寄警察署又ハ分

署へ送付シ而テ一二ノ記號ヲ速カニ郡役所へ送達スヘシ

第三項 郡役所ニ於テ其届書ヲ受クレハ別紙雛形貳印ノ箇所へ謄寫
シ置キ醫師ヨリ差出シタル本書ハ速カニ當廳衛生課へ送達スヘシ

第四項 該患者治癒或ハ死亡セシキハ別紙乙號届書用紙ニ記入シ前
各項ノ手續ヲ以テ差出スヘシ

第五項 届用紙ハ臨時差支ヲ生セサル様豫テ郡役所ヨリ受取リ置ク
ヘシ

第六項 他醫ノ施治ニ係ル患者ヲ診斷シ萬一傳染病ナルキハ前醫ニ
於テ届出ノ有無ヲ問ヒ若シ届出ナケレハ速カニ第一項ノ手續ヲ爲
スヘシ（但前醫隠蔽等ニテ届出ノ手續ヲナサノルモノハ其旨最寄
警察署へ届出ヘシ

發病御届

居住地

國 郡 村町 番地

何某父母兄弟姊妹ノ別

戶主(或ハ其ノ子何某父母兄弟姊妹)

職業

職 業

姓名

何

病名

何

年 齡

何 年 何 月 何 日

症候

或

發病時分

何 月 何 日 何 時 何 分

診斷

何 月 何 日 何 時 何 分

種 類

何 種 類 何 症 候

右御届仕候也

何 郡 何 村町 何 番地

明治 年 月 日

醫師

愛媛縣令 殿

全 上

				名 何 某	齡 何年何月	分月 何月何日何時何分	痘	町 何 番 地	師
							否		

全上

全上

甲第八拾八號別表

轉歸御届		居住地	何某父母兄弟姊妹、別	發病日	病名	患者轉歸	右御届仕候也
國	郡	何	日主(或)日主何某父母兄弟姊妹	何	何	治癒(或)死亡	
村町	番地	何		姓	病名	日診時分	
				何	何	何月何日何	
				日發時分	何月何日何	何月何日何	

何郡 何村町 何番地

明治 年 月 日

醫師 何

愛媛縣令 殿

全上

師 何 某 印	町 何 番 地	分月	分月	名	地
		何月何日何時何分	何月何日何時何分	何 某	

全上

全上

氏名	性別	年齢	職業	住居	病歴	検査	備考
山田 太郎	男	25	学生	東京都豊島区	不明	血清検査 陽性	
田中 一郎	男	30	会社員	東京都中央区	不明	血清検査 陽性	
佐藤 三郎	男	40	自営業	東京都品川区	不明	血清検査 陽性	
鈴木 五郎	男	50	会社員	東京都港区	不明	血清検査 陽性	
高橋 七郎	男	60	会社員	東京都目黒区	不明	血清検査 陽性	
中村 八郎	男	70	会社員	東京都文京区	不明	血清検査 陽性	
小林 九郎	男	80	会社員	東京都台東区	不明	血清検査 陽性	
山本 十郎	男	90	会社員	東京都千代田区	不明	血清検査 陽性	
石川 十一郎	男	100	会社員	東京都中央区	不明	血清検査 陽性	
水野 十二郎	男	110	会社員	東京都中央区	不明	血清検査 陽性	
木村 十三郎	男	120	会社員	東京都中央区	不明	血清検査 陽性	
高木 十四郎	男	130	会社員	東京都中央区	不明	血清検査 陽性	
山崎 十五郎	男	140	会社員	東京都中央区	不明	血清検査 陽性	
田村 十六郎	男	150	会社員	東京都中央区	不明	血清検査 陽性	
佐々木 十七郎	男	160	会社員	東京都中央区	不明	血清検査 陽性	
鈴木 十八郎	男	170	会社員	東京都中央区	不明	血清検査 陽性	
高橋 十九郎	男	180	会社員	東京都中央区	不明	血清検査 陽性	
中村 二十郎	男	190	会社員	東京都中央区	不明	血清検査 陽性	
小林 二十一郎	男	200	会社員	東京都中央区	不明	血清検査 陽性	
山本 二十二郎	男	210	会社員	東京都中央区	不明	血清検査 陽性	
石川 二十三郎	男	220	会社員	東京都中央区	不明	血清検査 陽性	
水野 二十四郎	男	230	会社員	東京都中央区	不明	血清検査 陽性	
木村 二十五郎	男	240	会社員	東京都中央区	不明	血清検査 陽性	
高木 二十六郎	男	250	会社員	東京都中央区	不明	血清検査 陽性	
山崎 二十七郎	男	260	会社員	東京都中央区	不明	血清検査 陽性	
田村 二十八郎	男	270	会社員	東京都中央区	不明	血清検査 陽性	
佐々木 二十九郎	男	280	会社員	東京都中央区	不明	血清検査 陽性	
鈴木 三十郎	男	290	会社員	東京都中央区	不明	血清検査 陽性	
高橋 三十一郎	男	300	会社員	東京都中央区	不明	血清検査 陽性	
中村 三十二郎	男	310	会社員	東京都中央区	不明	血清検査 陽性	
小林 三十三郎	男	320	会社員	東京都中央区	不明	血清検査 陽性	
山本 三十四郎	男	330	会社員	東京都中央区	不明	血清検査 陽性	
石川 三十五郎	男	340	会社員	東京都中央区	不明	血清検査 陽性	
水野 三十六郎	男	350	会社員	東京都中央区	不明	血清検査 陽性	
木村 三十七郎	男	360	会社員	東京都中央区	不明	血清検査 陽性	
高木 三十八郎	男	370	会社員	東京都中央区	不明	血清検査 陽性	
山崎 三十九郎	男	380	会社員	東京都中央区	不明	血清検査 陽性	
田村 四十郎	男	390	会社員	東京都中央区	不明	血清検査 陽性	
佐々木 四十一郎	男	400	会社員	東京都中央区	不明	血清検査 陽性	
鈴木 四十二郎	男	410	会社員	東京都中央区	不明	血清検査 陽性	
高橋 四十三郎	男	420	会社員	東京都中央区	不明	血清検査 陽性	
中村 四十四郎	男	430	会社員	東京都中央区	不明	血清検査 陽性	
小林 四十五郎	男	440	会社員	東京都中央区	不明	血清検査 陽性	
山本 四十六郎	男	450	会社員	東京都中央区	不明	血清検査 陽性	
石川 四十七郎	男	460	会社員	東京都中央区	不明	血清検査 陽性	
水野 四十八郎	男	470	会社員	東京都中央区	不明	血清検査 陽性	
木村 四十九郎	男	480	会社員	東京都中央区	不明	血清検査 陽性	
高木 五十郎	男	490	会社員	東京都中央区	不明	血清検査 陽性	
山崎 五十一郎	男	500	会社員	東京都中央区	不明	血清検査 陽性	
田村 五十二郎	男	510	会社員	東京都中央区	不明	血清検査 陽性	
佐々木 五十三郎	男	520	会社員	東京都中央区	不明	血清検査 陽性	
鈴木 五十四郎	男	530	会社員	東京都中央区	不明	血清検査 陽性	
高橋 五十五郎	男	540	会社員	東京都中央区	不明	血清検査 陽性	
中村 五十六郎	男	550	会社員	東京都中央区	不明	血清検査 陽性	
小林 五十七郎	男	560	会社員	東京都中央区	不明	血清検査 陽性	
山本 五十八郎	男	570	会社員	東京都中央区	不明	血清検査 陽性	
石川 五十九郎	男	580	会社員	東京都中央区	不明	血清検査 陽性	
水野 六十郎	男	590	会社員	東京都中央区	不明	血清検査 陽性	
木村 六十一郎	男	600	会社員	東京都中央区	不明	血清検査 陽性	
高木 六十二郎	男	610	会社員	東京都中央区	不明	血清検査 陽性	
山崎 六十三郎	男	620	会社員	東京都中央区	不明	血清検査 陽性	
田村 六十四郎	男	630	会社員	東京都中央区	不明	血清検査 陽性	
佐々木 六十五郎	男	640	会社員	東京都中央区	不明	血清検査 陽性	
鈴木 六十六郎	男	650	会社員	東京都中央区	不明	血清検査 陽性	
高橋 六十七郎	男	660	会社員	東京都中央区	不明	血清検査 陽性	
中村 六十八郎	男	670	会社員	東京都中央区	不明	血清検査 陽性	
小林 六十九郎	男	680	会社員	東京都中央区	不明	血清検査 陽性	
山本 七十郎	男	690	会社員	東京都中央区	不明	血清検査 陽性	
石川 七十一郎	男	700	会社員	東京都中央区	不明	血清検査 陽性	
水野 七十二郎	男	710	会社員	東京都中央区	不明	血清検査 陽性	
木村 七十三郎	男	720	会社員	東京都中央区	不明	血清検査 陽性	
高木 七十四郎	男	730	会社員	東京都中央区	不明	血清検査 陽性	
山崎 七十五郎	男	740	会社員	東京都中央区	不明	血清検査 陽性	
田村 七十六郎	男	750	会社員	東京都中央区	不明	血清検査 陽性	
佐々木 七十七郎	男	760	会社員	東京都中央区	不明	血清検査 陽性	
鈴木 七十八郎	男	770	会社員	東京都中央区	不明	血清検査 陽性	
高橋 七十九郎	男	780	会社員	東京都中央区	不明	血清検査 陽性	
中村 八十郎	男	790	会社員	東京都中央区	不明	血清検査 陽性	
小林 八十一郎	男	800	会社員	東京都中央区	不明	血清検査 陽性	
山本 八十二郎	男	810	会社員	東京都中央区	不明	血清検査 陽性	
石川 八十三郎	男	820	会社員	東京都中央区	不明	血清検査 陽性	
水野 八十四郎	男	830	会社員	東京都中央区	不明	血清検査 陽性	
木村 八十五郎	男	840	会社員	東京都中央区	不明	血清検査 陽性	
高木 八十六郎	男	850	会社員	東京都中央区	不明	血清検査 陽性	
山崎 八十七郎	男	860	会社員	東京都中央区	不明	血清検査 陽性	
田村 八十八郎	男	870	会社員	東京都中央区	不明	血清検査 陽性	
佐々木 八十九郎	男	880	会社員	東京都中央区	不明	血清検査 陽性	
鈴木 九十郎	男	890	会社員	東京都中央区	不明	血清検査 陽性	
高橋 九十一郎	男	900	会社員	東京都中央区	不明	血清検査 陽性	
中村 九十二郎	男	910	会社員	東京都中央区	不明	血清検査 陽性	
小林 九十三郎	男	920	会社員	東京都中央区	不明	血清検査 陽性	
山本 九十四郎	男	930	会社員	東京都中央区	不明	血清検査 陽性	
石川 九十五郎	男	940	会社員	東京都中央区	不明	血清検査 陽性	
水野 九十六郎	男	950	会社員	東京都中央区	不明	血清検査 陽性	
木村 九十七郎	男	960	会社員	東京都中央区	不明	血清検査 陽性	
高木 九十八郎	男	970	会社員	東京都中央区	不明	血清検査 陽性	
山崎 九十九郎	男	980	会社員	東京都中央区	不明	血清検査 陽性	
田村 一百郎	男	990	会社員	東京都中央区	不明	血清検査 陽性	

甲種入館入館別表

第七項 患者ノ需メニ應シ醫師貳名以上ニシテ
 甲ハ通常病ト言ヒ各其所見ヲ異ニスルハ各自意見書ヲ以テ最寄公立病院長或ハ郡醫ニ就キテ診断ヲ受クヘシ

第八項 前項ノ場合ニ於テハ公立病院長或ハ郡醫ヨリ其顛末詳細衛生課ヘ報告スヘシ

届書記載例

- 一 居住地ハ原籍寄留滞在地ニ拘ハラヌ現在發病ノ郡町村名ヲ記載ス
- 一 職業ヲ記載スルニハ左ノ區別ニ依ルヘシ
官吏 醫師 僧侶 諸業 農圃 商賈 職工 舟乘 礦夫 力役 罪囚
- 一 職業ハ各本人ノ現業ヲ明記ス例ヘハ農業主或ハ(農ニシテ自カラ勞役セサルモノ)ト(自カラ耕作スルモノ)トヲ區別シ又ハ婦女老幼等ニシテ定リタル自己ノ職業ナキモノハ戸主何職業ト記載ス
- 一 藝術家ヲ始メ華士族平民共前項職業區別第一ヨリ第三第五ヨリ第十一ニ至ル各職業ニ該ルモノヲ除ク外總テ第四諸業ノ部ニ入ル
- 一 年齢ハ何年何ヶ月ト記載シ年號月日出生ト記スヘカラス
- 一 症候ハ緩劇ノ區別ヲ明記ス

一 發病月日時分ハ醫師診察ノ有無ニ拘ハラヌ當初發病セシ月日時分ヲ記載ス

一 診斷月日時分ハ發病ノ幾日ナルニ拘ハラヌ醫師初診ノ月日時分ヲ記載ス

一 種痘區別ヲ記載スルハ未種痘又ハ初種再三種及其善感不善感ノ別ヲ記ス

一 患者轉歸ヲ記入スルニハ月日時分治癒(或ハ死亡)ト記載スヘシ

〔本年甲第百號ヲ以追加〕

○甲第八拾九號 六月六日

新聞紙報書式別冊之通相定候條該營業ノモノハ自今右ニ準據シ前月分翌月七日限間取調正副二通直ニ當廳エ差出スヘシ

右布達候事

新聞紙雜誌
雜誌月報書式

何々新聞雜誌
雜誌發賣金高何圓

定價
壹枚
冊金何錢

但定價ヲ變更シタル當月ニ限り(舊定價壹(枚冊)金何錢)ト本行ノ
方ニ書スヘシ

發賣員數
何(枚冊)

但無代價刷行ノモノナレハ發賣員數(配布員數)ト書スヘシ

此內譯

外國へ發賣又ハ
配布之部

外國在留本邦人へ
何枚
冊

本邦在留外國人へ

外國へ

全 全

內國へ發賣(又ハ配布)ノ部

何府
何縣下何國へ

何枚
冊

全
以下
做之

但各廳へノ納本ハ該廳所仕ノ國ニ算入ス且ツ一時一枚賣ノ如キモ
何國ノ人ナ間ハス賣捌ノ國ニ算入スヘシ發行所ノ外ニ於テ賣捌キ
タル國ナモ區分シテ發行所ノ分ト一筆ニ列記スヘシ
右之通相違無之候也

愛媛縣下何國何郡何町何村何地
何新聞紙又ハ雜誌雜誌報社主何 某印

縣令宛

○甲第九拾號 六月十一日

自今衛生上ニ係ル願伺届ニハ所轄衛生委員連署之上差出スヘシ
右布達候事

○甲第九拾壹號 六月十八日

郡長委任條件第十九條中へ挿入 (原達訂正)

●甲第九拾貳號 六月十八日

松山高松兩病院ニ設置ノ醫學校ハ本年六月三十日限り廢止ス
右布達候事

○甲第九拾三號 六月十八日

本縣ニ於テ印紙稅檢査濟之藥劑ト雖モ他府縣下エ行商スルモノハ其

府縣ノ成規ニ仍リ檢査アルモハ檢査ヲ受クヘシ

右布達候事

○甲第九拾四號 六月十四日

官費又ハ地方稅ノ負擔ニ屬スル道路橋梁及ヒ河海堤防水物等ヲ協議
費ヲモツテ修理セントスルモハ本廳ノ許可ヲ受クヘシ

協議費又ハ自費ノ負擔ニ屬スル道路橋梁及ヒ河海堤防水物若クハ用
惡水路等ヲ修理スルハ許可ヲ受クルニ及ハストイヘモ舊來ノ仕様變
更又ハ新設ニ屬スルモノハ本廳ノ許可ヲ受クヘシ
右布達候事

○甲第九拾五號 六月廿二日

郡長委任條件へ左ノ一條ヲ增加ス (原達訂正)

右布達候事

○甲第九拾六號 六月廿二日

公立^{高松}兩病院名稱自今縣立^{高松}松山病院ト改稱ス

○甲第九拾七號 六月廿二日

今般空發并ニ玉入威銃規則左ノ通改定本年七月一日ヨリ施行ス

但從前達指令等本文ニ抵觸ノ分ハ消滅候儀ト可相心得

右布達候事

空發威銃規則

第一條 空發威銃ハ田畑等ニ害ヲ爲ス鳥獸ヲ威壓スルノ具ニ付彈丸

ヲ込メ候儀ハ決シテ不相成モノトス

第二條 空發威銃ノ期限ハ六ヶ月以内トス

第三條 空發威銃致度モノハ有害鳥獸ノ種類并ニ其害ヲ爲ス景况概

畧書載レ所轄郡役所へ願出免許鑑札申受ヘシ

但鑑札遺失等致候ハ、其旨速ニ所轄郡役所へ可届出

第四條 假令免許ヲ得タル者ト雖モ居村限リニテ他村ニ於テ獵ニ發

砲候義ハ一切相成ラサルモノトス

但他村ニ田畑等所持候者ハ此限ニ非ス

第五條 發砲ノ節ハ必ス免許鑑札ヲ所持致シ何人ニ限ラス一見セン

ト請フ者アルモ直ニ之ヲ示スヘシ

第六條 免許ヲ得シ本人ノ外假令一家ト雖モ取扱不相成モノトス

但鑑札ハ賣買若シクハ貸借スルヲ得ス

第七條 十年未滿ノ者銃砲用方ヲ知ラサルモノ及ヒ白痴風癩等ノ者

へハ鑑札下付セサルモノトス

第八條 右免許鑑札ノ限日過去リ候上ハ其効ナキモノトス

玉入威銃規則

第一條 鳥獸ノ田畑等ニ害ヲ爲ス殊ニ甚シク不得已節ハ一ヶ月以内
ヲ限リ詮議ノ上玉入威銃ヲ免許スルコトアルヘシ

第二條 玉入威銃ノ免許ヲ得ント欲スルモノハ其願書ニ有害鳥獸ノ
種類并ニ其害ヲ爲ス景况概畧書載レ所轄郡役所へ願出免許鑑札ヲ
申受ケヘシ(但砲殺シタル鳥獸ヲ他ニ賣渡スコトヲ許サス)

第三條 願書ニハ和銃何々和銃ナレハ玉目洋銃ナレハ其銃名若シ其
用ユル所ノ銃名ヲ記載スヘシ

第四條 獲砲ノ節ハ必ス免許鑑札ヲ所持致シ何人ニ限ラス其鑑札ヲ

一見セント請フ者アルキハ直ニ之ヲ示スヘシ

第五條 免許ヲ得シ本人ノ外假令一家族ト雖モ取扱不相成モノトス
但鑑札ハ賣買若シクハ貸借スルコトヲ得ス

第六條 假令免許ヲ得タル者ト雖モ居村限リニテ他村ニ於テ獵ニ發
砲候義ハ一切相成ラザルモノトス

但他村ニ田畑等所持候者ハ此限ニ非ス

第七條 十年未滿ノ者銃砲用方知ラサルモノ及ヒ白痴風癩等ノ者へ
ハ免許ヲ與ヘス

第八條 右免許鑑札ノ限日過去リ候上ハ其効ナキモノトス

第九條 左ニ列記シタル場所ニ於テハ玉入威銃ヲナスヲ禁ス
一銃丸ノ達スヘキ恐レアル人家ニ向ヒタル距離ノ場所

一 禁獵制札ノ場所

○甲第九拾八號 六月二十五日

本年(四月)第拾三號公布ヲ以テ船稅規則制定相成候得共在來ノ船舶
ハ更ニ檢査ヲ受クルニ不及候條左ノ各項ニ從フベシ(但在來免稅船
ニシテ此際有稅船ノ鑑札ヲ申請スル者ハ此限ニアラス

一 鑑札下渡及ヒ免稅印烙記方ハ本年七月三十一日迄ニ定繫場ノ戸長
ヲ經テ願出ヘシ

一 有稅ニテ此際他郡村へ定繫場ヲ定ムルモノト雖モ本年七月三十一
日限可相納稅金ハ從來處管ノ戸長役場ニ納ムヘシ

一 鑑札下渡及免稅印烙記願書ニハ左ノ件々ヲ記載スヘシ
一定繫場何郡何港又ハ何郡何(町村)海岸何河岸等

一 何噸積蒸氣風帆(又ハ何石積日本形)船何丸船主姓名

但貯漁小回船ノ類ハ貯船又ハ何船長何間ト記スヘシ

一 免稅船ハ船ノ種類倉庫船水田用田船等ノミヲ記スベシ

一 舊鑑札並ニ烙印木札ハ新鑑札受取ノ際返納スヘシ

○甲第九拾九號 六月二十六日

日本形船舶鑑札申請其他ノ手續本年七月一日以后左ノ通相定

第一條 新製造船シタルモノハ船名五十石未滿船貯漁船小及ヒ定繫
場何港又ハ何町村ナ詳記シタル書面ヲ以テ其定繫場所轄戸長ヲ經
テ願出ツベシ

第二條 他郡區ニ於テ新製造船シタルモノ及ヒ買受ケ讓受ケタルモ
ノハ假鑑札又ハ舊鑑札相添其願書ニ積石(五十石未滿船ノ類ハ延

長間敷) ナモ記入シ第一條ノ手續ヲ爲スベシ (但同郡又ハ同町村
内ノ者ヨリ買受讓受ケタル者モ本文ノ手續ヲ爲スベシ

第三條 積石五拾石未滿船及ヒ舢漁船小回船遊船ノ鑑札ハ該船舳外
ノ左側ニ釘付スベシ

第四條 他郡區他町村ニ於テ新規造船シ又ハ買受讓受タルモノハ速
ニ定繫場ニ廻漕シ本鑑札ヲ申受クベシ

第五條 賣與讓與又ハ破船解船等ノ節ハ其都度届出ツヘシ
但破解ニ係ルモノハ届出鑑札還納スベシ

第六條 免稅船ヲ新調シタルモノハ該船ノ名稱及ヒ其使用方ヲ詳記
シタル書面ヲ以テ其都度届出免稅ノ烙印ヲ受クヘシ

第七條 免稅船破解又ハ賣買讓與シタルモノハ其都度届出ヘシ尤買受

ケ讓受ケノ者ハ其届書ニ該船使用方ヲ付記スヘシ (但破船解船ニ係
ルモノハ烙印ノ部分ヲ切取り届出ノ節還納スヘシ
右布達候事

○甲第百號 六月廿七日

本年甲第八十八號布達傳染病患者届手續記載例末項追加(原達訂正)

○甲第百壹號 六月廿七日

凡ソ戸籍ハ人民ノ系譜倫理ノ綱領ナレハ家督相續其他戸籍上一般異
動加除等ニ關スモノハ渾テ無遺漏速ニ其筋々へ願伺届出ツヘシ將タ
神社寺院興廢移轉并神官住職進退其他社寺一般ニ關スルモノ亦同様
速ニ其筋々へ願伺届出ツヘシ (但從來願伺届出期限ノ成規アルモノ
ハ其期限ノ通タルヘシ

右布達候事

○甲第百貳號 六月二十八日

荒地年季明賦稅出願方ノ義十四年甲第百廿九號布達左ノ但書ヲ加
フ(但實地丈量ノ上原反別ニ對シ増減無之ハ野取圖添ルニ及ハス

○甲第百三號 六月廿七日

本年(三月)甲第五拾三號ヲ以テ河川へ水門又ハ堰及埋樋等新規取設
之義ニ付及布達候處尙從來慣行アリテ現ニ設置アルモノト雖モ其有
形變更(木造水門及埋樋ヲ石造又ハ陶器ニ或ハ土俵堰ヲ冊又ハ石
垣ニシ或ハ間數ヲ變スル等渾テ仕様ノ變更スルヲ云フ)
スル場合於ハ詳細ナル仕様帳及明瞭ノ圖面相添前以許可ヲ受クヘシ
右布達候事

○甲第百四號 六月廿八日

郡長委任條件第三十五條第三十六條更正ス (原達訂正)

○甲第百五號 六月三十日

明治十六年度地方稅收出豫算地租割雜收入國庫下渡金並ニ警察費警
察廳舍建築修繕費衛生及病院費教育費郡吏員費給料旅費及廳中諸費
豫備費ハ其筋ノ指揮ヲ請ケ其他ハ縣會議ヲ認可シ別紙之通相定ム
右布達候事

明治十六年度地方稅收入豫算

一金三拾五万八千五拾七圓拾四錢壹厘	地租割
一金五万八千七百五拾三圓壹錢五厘	營業稅
一金五万七千七百八拾四圓五錢七厘	雜種稅
一金五万六千三拾五圓八錢	戶數割

一金四万千六百九拾九圓六拾錢

雜收入

一金六万九千九百五拾圓

前々年度ヨリ繰越高

一金三万四千六百八拾四圓六拾壹錢五厘

國庫下渡金

合計金六拾七万九百六拾三圓五拾錢八厘

明治十六年度地方稅ヲ以テ支辨スル經費豫算

一金拾四万八千六百五拾五圓

警察費

內 金拾壹万四千三百五拾圓

地方稅

內 金三万四千三百五圓

國庫下渡金

內譯

金六万九千拾貳圓

俸給

金四万七千五百四拾壹圓

雜給

金三万貳千百貳圓

廳費

一金千六百四拾五圓

警察廳舍建築修繕費

內 金千貳百六十五圓三拾八錢五厘

地方稅

內譯

金千五圓

建築費

金六百四拾圓

修繕費

一金七万千八百九拾七圓

土木費

內譯

金貳万八百七拾六圓

道路橋梁費

金五万貳拾壹圓

治水堤防費

金千圓

港灣費

一金九千四百拾七圓

縣會議諸費

內譯

金三千五百圓

俸給

金四千九百七拾壹圓

雜給

金九百四拾六圓

雜費

一金貳萬八千九拾四圓

衛生及病院費

內譯

金貳千七百八拾壹圓

衛生費

金壹萬三百三拾八圓

高松病院費

金壹萬三千九百七拾五圓

松山病院費

金千圓

傳染病豫防費

一金三萬貳千八百八拾六圓

教育費

內譯

金壹萬九百拾七圓

師範學校費

金六千七百貳拾圓

醫學校費

金六千貳拾四圓

巡回訓導費

金七千四百圓

中學校費

金千圓

小學生徒獎勵費

金百貳拾五圓

學務報告費

一金百圓

町村教育補助費

一金七百七拾四圓

郡廳舍建築修繕費

內譯

金三拾五圓

建築費

金七百三拾九圓

修繕費

一金九万千五百貳拾八圓

郡吏員給料旅費
及廳中諸費

內譯

金四万七千九百拾六

俸給

金貳万三千七百五拾四圓

雜給

金壹万九千八百五拾八圓

廳費

一金三百圓

救育費

一金拾五圓

浦役場及難破船諸費

內譯

金拾五圓

難破船諸費

一金五千四百六拾三圓

諸達書及揭示諸費

內譯

金五千三百七拾五圓

諸達書費

金八拾八圓

揭示諸費

一金四千三百六拾四圓

勸業費

一金拾六万九千八百六拾壹圓

戶長以下給料及戶長
職務取扱諸費

內譯

金七万四千六百八拾五圓

俸給

金六万六百三拾壹圓

雜給

金三万四千五百四拾五圓

廳費

一金三百六拾壹圓

地方稅取扱費

一金四百三拾三圓

縣廳舍建築修繕費

内譯

金四百三拾三元

修繕費

一金九万千八百五拾貳円

監獄費

内譯

金壹万七百七拾七圓

俸給

金貳万四千三拾八円

雜給

金六千八百八拾四圓

廳費

金七千五百壹円

未決囚諸費

金四万貳千六百五拾貳円

已決囚諸費

一金三千八百七拾六円

監獄建築修繕費

内譯

金三千百貳拾圓

建築費

金七百六拾六円

修繕費

一金壹万百四拾貳円五拾錢八厘

課備費

合計金六拾七万九百六拾三元五拾錢八厘

○甲第百六號 六月三十日

客年(十二月)第六十三號公布煙草稅則第三十壹條之趣モ有之候處喫煙者自ラ摘斷シテ相用ヒ候處惡ノ分(方言摘切煙草ト稱フルモノ)ニ限リ煙草製造人ニ於テ一葉ヲ兩三斷ト爲シ稅則第十三條ノ區分ニ從ヒ印紙貼用ノ上ハ販賣苦シカラス
右布達候事

○甲第百七號 六月三十日

明治十六年度地方税ノ内營業稅雜種稅規則縣會ノ決議ヲ認可シ別紙
之通相定ム

右布達候事

營業稅雜種稅規則

第一則 稅額及營業圍範

第一條 地方稅中營業稅ヲ賦課スヘキ種目及ヒ稅額左ノ如シ

營業稅

一 商業分ツテ第十類トス

第一類 卸賣商

一ヶ年賣上金高千分ノ二

一 卸賣商トハ店肆ヲ開クト行商トナ間ハス諸物品ヲ商人ヘ賣渡
スモノトス

第二類 仲買商

一ヶ年紹介金高千分ノ一

一 仲買商トハ米穀其他諸物品賣買ノ仲間ニ立テ其紹介ヲ爲シ賃
錢手數料ヲ得ルモノナ云（但通俗間屋ト稱スルモ其業体本文
ニ準スルモノハ此部分トス

第三類 小賣商

一ヶ年賣上金高千分ノ二五

一 小賣商トハ店肆ヲ開クト行商トナ間ハス諸物品ヲ自用人ヘ賣
渡スモノナ云

第四類 雜商

一ヶ年收益金高百分ノ二

一 雜商トハ營業稅雜種稅中ニモ名目ナキ營業ヲ爲スモノ即チ書
籍夜具等ノ損料貸其他建築運輸土工修繕及賄方等ノ請負又ハ
金數貸借ノ紹介ヲ爲シ手數料ヲ受クルモノ等ナ云

第五類 質屋

一ヶ年收益利子金高百分ノ二

一質屋トハ諸物品ヲ質トナシ金錢ヲ貸付スルモノナク
但金穀貸付ヲ業トスルモノハ都テ此部ニ属ス

第六類 兩換屋(爲換店也)

一ヶ年取扱高金壹万分ノ一

一兩換屋トハ他人ノ望ニ應シ金銀銅貨紙幣等ヲ交換シ或ハ爲換
等ヲ取組其手数料ヲ得ルモノナク

第七類 運漕店

一ヶ年運賃金高千分ノ二

一運漕店トハ海陸ヲ問ハス荷物運漕人馬ノ繼立及ヒ旅客舟車ヲ
做フノ周旋ヲ業トスルモノナク

第八類 古着商

一ヶ年賣上金高千分ノ五

一古着商トハナ店肆ヲ開クト行商トナ間ハス古着ヲ賣買スルモ

ノナク

第九類 古道具
古金

一ヶ年賣上金高千分ノ五

一古道具古金商トハ店肆ヲ開クト行商トナ間ハス古道具(書畫
骨董トモ)古金ヲ賣買スルモノナク

第十類 旅籠屋

一ヶ年收入金高千分ノ三

一旅籠屋トハ旅客ヲ宿泊セシムルモノナク
但牛馬宿モ亦此部トス

一工業

一工業

一ヶ年收入賃錢
手数料金高千分ノ八

一工業トハ職工非職ヲ問ハス總テ職工手間等ヲ雇入物品製造ノ
如クハ加工裝飾シ或ハ職工ニシテ自ラ其業從事シ賃錢手数料

ヲ受クル者ヲ云

第二條 地方税中雜種税ヲ賦課スヘキ種目及ヒ税額左ノ如シ
雜種税

一料理屋

一ヶ年収入金高千分ノ十五

一料理屋トハ客ノ好ニ應シ酒宴ヲ開キ飲食セシメ及ヒ仕出料理
ヲ爲スモノヲ云

一待合茶屋

一ヶ年金六圓

一待合茶屋トハ各人待合ノ爲メ暫ク席ヲ貸與ヘ喫茶喫飯等ヲ爲
サシメ或ハ客ノ需メニ應シ飲食物ヲ供スルモノヲ云

一遊船宿

一ヶ年金六圓

一遊船宿トハ遊漁避暑等ノ者ヘ船ヲ貸シ或ハ飲食物ヲ供スルモ

ノヲ云

一芝居茶屋

一ヶ年金六圓

一芝居茶屋トハ演劇諸興行ノ節客ヲ誘導シ或ハ飲食物ヲ供スル
モノヲ云

一飲食店

一ヶ年収入金高百分ノ一

一飲食店トハ鰻屋鮓屋蕎麥屋羹賣店等ノ類ヲ云

一湯屋分ツテ二種トス

第一種 浴場

一等

一ヶ年金壹圓五拾錢

但每槽長ヲ通量シ七尺以上ノモノ

二等

一ヶ年金六拾錢

但全上七尺未滿ノモノ

第二種 石風呂 一ケ年金三拾錢

一理髮人 一ケ年收入金高百分ノ一五

一理髮人トハ散髮結髮ノ別ナク男女ヲ問ハヌ理髮ヲ業トスルモノヲ云

一傭人請宿 一ケ年金貳圓

一傭人請宿トハ男女ノ請傭人ヲ紹介ノ手数料ヲ受クルモノヲ云

一遊藝師匠 一ケ年金三円

一遊藝師匠トハ他人ノ依頼ニ應シ音曲其他ノ遊藝ヲ教授シ謝金ヲ受クルモノヲ云

一遊藝稼人 一ケ年金六円

一遊藝稼人トハ俳優藝妓幫間遊藝師匠相撲ヲ除キ他ノ諸遊藝ヲナスモノニシテ賃錢纏頭等ヲ受クルモノヲ云

一相撲 一ケ年金四円

一相撲行司 一ケ年金四円

一俳優 一ケ年金八円

一俳優トハ通俗歌舞伎役者ト唱フルモノヲ云

一幫間 一ケ年金三円

一藝妓 一ケ年金三円五拾錢

一幫間藝妓トハ客ノ需メニ應シ酒宴ノ席ニ臨ミ藝ヲ露キ賃錢纏頭等ヲ得ルモノヲ云

一市場 上リ金高千分ノ十五

一市場トハ衆人ヲ集メテ物品ヲ競賣スルモノ則チ魚市青物市古
道具市牛馬市等ヲ云（但牛馬市ハ競賣スルニ非スシテ衆人相
集リ市立ヲ爲シ賣買スルモ本文ニ準ス

一演劇

一日金壹円五拾錢

一演劇トハ通俗歌舞伎芝居及人形芝居ト唱フルモノヲ云

一興行分ツテ二種トス

第一種

一日金七拾五錢

第二種

一日金五拾錢

一第一種興行ハ相撲 曲馬 曲戲 手踊 能 狂言 等ヲ云

一第二種興行ハ槍 劍 術 淨 瑠 璃 談 落 語 祭 文 浮 レ 節 諸 見 セ 物 等 等 云

一遊覽所

上リ金高百分ノ四

一遊覽所トハ植物ノ花 侯 等ニ際シ遊園等ニ於テ木戸ヲ設ケ見料
ヲ受クルモノヲ云

一遊技場

一ケ年金五円

一遊技場トハ大弓 半弓 揚弓 射的 銃 吹 矢 投 扇 等ノ諸遊技ヲナス場
所ヲ云

一船分ツテ二種トス

第一種 舢舨 海川 小回船

五間船

一ケ年金五拾錢

四間船

一ケ年金三拾五錢

三間船以下

一ケ年金貳拾錢

第二種 漁船

五間船

一ヶ年金三十拾五錢

四間船

一ヶ年金貳拾五錢

三間船以下

一ヶ年金拾五錢

一車分ツテ九種トス

第一種 馬車二匹立以上

一ヶ年金三圓

第二種 馬車一匹立

一ヶ年金貳圓

第三種 荷積馬車

一ヶ年金壹圓

第四種 二人乘人力車

一ヶ年金貳圓

第五種 一人乘人力車

一ヶ年金壹圓

第六種 牛車

一ヶ年金壹圓

第七種 荷積大(七八)車

一ヶ年金壹圓

第八種 荷積(中小)車

一ヶ年金五拾錢

第九種 猫車

一ヶ年金貳拾五錢

一水車分ツテ七種トス

一水車ハ耕作灌漑ノ用ニ充タサルモノナリ云

一石搗トハ陶器ニ用ユル石紛搗ナリ云ヒ杉葉搗トハ線香ニ用ユル杉葉搗ナリ云

一雜水車トハ第六種以上へ編入シ難キモノニシテ即チ繪ノ具摺

砂糖絞リ等ノ如キモノナリ云

第一種 綿繰水車

一ヶ年器械一挺ニ付金壹圓

第二種 絞油(種實)搗水車

一ヶ年白壹個ニ付金貳拾五錢

第三種 米搗水車

一ヶ年白壹個ニ付金八錢

第四種 石搗水車

一ヶ年白壹個ニ付金八錢

第五種 杉葉搗水車

一ヶ年白壹個ニ付金八錢

第六種 粉挽水車

一ヶ年白壹個ニ付金壹圓

第七種 雜水車

一ヶ年一ヶ所ニ付金五拾錢

一乘馬

一ヶ年一頭ニ付金壹圓五拾錢

一層畜

一頭ニ付金五拾錢

一層畜トハ食料ノ爲メ牛羊豚ノ類ヲ屠殺スルヲ云

第二則 課税區別

第三條 營業稅雜種稅課税區別左ノ如シ

第一項 營業稅雜種稅ハ其種目限各別ニ課税シ一軒内ニ於テ數種

ノ營業ヲ兼ヌルモノハ各個ニ課シ一人ニシテ數所ニ出店スルモ

ノハ各所軒別ニ課税スルモノトス

但別段ノ正條ヲ定ムルモノハ此限ニ非ラス

第二項 一軒内ニ於テ全商業ヲ營ムモノト雖モ營業人異ナルハ

各營業人ニ就キ課税スルモノトス

第三項 工業者ニシテ其製造又ハ加工裝飾シタル物品ヲ販賣スル

者ハ卸小賣ヲ區別シ其賣上金高ニ依リ商業稅ヲ課スルモノトス

但本文ノ如シト雖モ本業ノ傍ヲ兼賣スルモノハ商工ヲ區別シ

各別ニ課税ス

第四項 食物ヲ製造スルモノハ工業稅賦課ノ限ニ非スト雖モ素麵

ヲ製造スルモノハ工業ニ準ス

第五項 工業稅ハ一軒内ニ得ル所ノ賃錢手數料ニ依リ課税ス故ニ

一 軒内ノ子弟又ハ傭人ニシテ全業ニ従事スル如キハ常備ト臨時傭トナ問ハス都テ其賃錢手數料ヲ通算ス

第六項 理髮人ハ一軒内ニ得ル所ノ收入金ニ依リ課税ス故ニ一軒内ノ子弟ニシテ全業ニ従事スルカ如キハ渾テ其收入金ヲ通算スルモノトス

第七項 一乘馬ハ自用渡世ヲ問ハス課税ス

第八項 山野ノ鳥獸ヲ獵獲シ(銃獵ヲ除ク)販賣ヲ業トスルモノハ卸小賣ヲ區別シ課税ス

第九項 貸座敷營業者ニシテ諸飲食物ヲ割烹シ來客ニ供シ又ハ仕出料理ヲナスモノハ料理屋税ヲモ課税ス

第十項 農家ニシテ自家農産物漁者ニシテ自家漁魚採藻者ノ採藻

自家製造ノ食鹽ヲ賣却スルモノハ課税セス(但店肆ヲ開キ又ハ賣捌場所ヲ設ケ及ヒ食鹽ノ外製造シテ販賣スルモノハ卸小賣ヲ區別シ課税ス然レモ甘蔗ヲ絞リ木ヲ炭ニ燒キ石ヲ灰ニ燒キ樹木ヲ板角ニ作り漁魚ヲ乾立ル等ハ前文製造ノ限ニ非ラス

第十一項 商業者ニシテ旅行或ハ航海中他府縣ノ物品ヲ購求シ直ニ他府縣ニ賣渡スモノハ課税セス

第十二項 演劇興行ハ木戸棧敷等ヲ設ケサルモノハ課税セス
第十三項 人寄席ハ課税セス

第十四項 祭文浮レ節居合抜眼目鏡猿回シノ類路傍又ハ縁日等ノ節社寺境内等ニ於テ技藝ヲ演シ慈惠ト報酬トヲ兼テ瑣末ノ米錢等ヲ受クルモノハ課税ノ限ニ非ラス

第十五項 遊藝稼人遊藝師匠相兼ヌルモノハ其税額ノ重キ一方ニ就キ課税ス

第十六項 各營業者中ニ於テ貧困支ヘス實際納税シ能ハサルモノ及ヒ盲人其他廢疾等ニシテ事實憫諒スヘキモノハ戸長ノ申立ニ依リ免税スルコトアルヘシ

第十七項 山間僻地等ニ於テ旅行ノ便ヲ量リ宿泊セシムルモノニテ旅館屋ノ専業ニ非サルモノハ戸長ノ申立ニ依リ免税スルコトアルヘシ

第十八項 官ノ救助ヲ受クルモノハ其季ノ税ヲ徴收セサルモノトス(但已ニ徴收シタルモノハ下戻サ、ルモノトス)

○甲第百八號 六月三十日

本年甲第百七號ヲ以テ營業税雜種税規則市達候ニ付テハ施行順序別紙之通相定ム

右市達候事

營業税雜種税規則施行順序

第一則 税率調査

第一條 營業税雜種税中金高ニ應シ税額ヲ定ムルモノハ前一ケ年ノ賣上及紹介収益等ノ金高ニ依ルモノトス(但前年營業一ケ年未滿ノモノハ實際經過セシ月數ノ金高ヲ以一ケ年ニ推算スヘシ)

第二條 第一條ノ金高ハ各營業者ニ於テ前一ケ年ノ金高ヲ詳細取調郡長宛ノ届書ヲ作り本年七月十五日限り該町村戸長役場へ差出スヘシ(但前年無税營業ニ係ルモノモ本文ニ準ス)

第三條 戸長ハ前條届書ヲ勘査シ適實ト認ルキハ之レニ奥書加印シ取纏郡役所ヘ差出ヘシ若シ不適實ト思惟スルキハ本人ニ説諭シ適實ニ歸セシムヘシト雖モ本人ニ於テ承服セサルキハ取計方郡長ヘ稟議シ指揮ヲ受クヘシ

第四條 郡長ハ各營業者届出ノ金高ヲ勘査シ適實ト看認ルキハ之レヲ受理シ若シ不適實ト思惟スルキハ直ニ再調ヲ命シ或ハ郡吏ヲ派遣シ該家ノ賣上紹介及収益等ノ帳簿ヲ検査スルコトアルヘシ且前條末段ノ如ク届金高不適實ノ趣ヲ以戸長ヨリ稟議スルキハ直ニ郡吏ヲ派遣シ諸帳簿等精査ノ上至當ノ高ニ歸セシムヘシ（但假令一旦受理スルモ後日ニ到リ若シ不適實ト思惟スルキハ郡吏ヲ派遣シ各營業家ノ諸帳簿ヲ検査セシムルコトアルヘシ

第五條 轉業又ハ新規營業爲サント欲スルモノハ其賣上又ハ紹介収益金等一ケ年平均高ヲ見積定規ノ税額ヲ賦課ス故ニ一ケ年見積金高ハ其營業人ニ於テ豫メ見込ヲ立該届書ニ添郡役處ヘ差出スヘシ但本文見込金高追テ實際ノ金高ニ差異ヲ生スルモ該年度ノ税金ハ之レヲ増減セサルモノトス

第六條 賣上紹介等ノ金高ニ據リ課スルモノハ各種營業種目ヲ云毎ニ必ス仕入賣上現金及當坐等ノ帳簿ヲ製シ日々金員詳細列記シ每一ケ月ノ計算ヲ爲シ滿一ケ年ニ至リ總計金額ヲ記載シ置ヘシ

第七條 諸市場遊覽所ノ如キハ帳簿ヲ製シ毎廉限リ金員詳細記載シ每翌日必ス戸長ヘ差出シ其檢印ヲ受ケ置ヘシ

第八條 屠畜ハ帳簿ヲ製シ日々屠殺スル所ノ頭數ヲ詳記シ置每翌月

五日限り前月分ノ惣數ヲ戸長役場へ届出ヘシ

第九條 第六條第七條第八條ニ掲クル帳簿ハ縣官郡吏又ハ戸長等臨時檢査スルコトアルヘシ

第十條 第二條ニ掲クル金高届書式ハ附錄第一號ニ據ルヘシ

第二則 營業ノ順序

第十一條 營業稅雜種稅規則第一則第一條第二條ニ掲クル諸營業ノ内左ノ種目ハ郡役所へ出願ノ上許可ヲ受ヘシ其他ハ揮テ同所へ届出ヘシ(但別段ノ規則布達等ヲ以テ定ムル者ハ届出ノ限ニ非ス
一市場 一演劇 一諸興行 一遊覽所 一遊技場 一雇人請宿
一遊藝師匠 一遊藝稼人 一相撲 一相撲行司 一俳優 一幫間
一藝妓 一屠畜 一水車 一乘馬

第十二條 前條許可ヲ得又ハ届出ヲ爲シタル者ハ附錄第十號雛形ノ看板ヲ自製シ戸長役場ノ檢印ヲ受ケ戸外ニ掲クヘシ

第十三條 諸興行牛馬市等ノ如キ臨時免許ノモノ及前年度無稅ニ係ル營業者ノ外揮テ一旦許可ヲ得又ハ届出ヲ爲シタルモノハ代換改名轉居或ハ廢業轉業等ヲ爲スニ非サレハ別段營業願届等ヲナスニ及ハスト雖モ年度換リノ際營業看板へ更ニ戸長役場ノ檢印ヲ受クヘシ(但廢業轉業ヲ爲スモノ次季ニ涉リ届出ルモノハ其季ノ稅ヲ上納スヘシ)

第十四條 前年度中無稅ニ係ル營業者ハ更ニ願届ヲ爲スヘシ

第十五條 藝妓營業ヲ爲サント欲スルモノハ其父母若クハ兄弟獨身ノモノハ親族ヲ以テ身元保証人トナシ願書ニ連署セシムヘシ

第十六條 他管下ノ婦女本縣内ニ於テ藝妓營業ヲ爲サントスルハ其營業スヘキ地ニ於身元引受人ヲ定メ其引受證書ヲ添ヘ願出ヘシ

第十七條 行商並出職ヲ爲ス者ハ一人毎ニ鑑札ヲ下附スルニヨリ雇人ヲシテ行商セシムル者ハ其人名ヲ記載シテ願出ヘシ(但本文雇人ハ常ニ雇主ノ家ニ寢食シ使役セラルヽモノニ限ル依テ其旨豫テ届出置ヘシ)

第十八條 鑑札所持ノ者ニシテ水火盜難若クハ過誤等ニ由リ亡失シ或ハ毀損スルハ其旨十日以内ニ郡役所ヘ届出更ニ之ヲ申請ヘシ

第十九條 代換改名轉居等ノ節ハ其旨速ニ郡役所ヘ届出鑑札ヲ所持スルモノハ其書換ヲ請フヘシ

第二十條 廢業ノ節ハ其旨速ニ郡役所ヘ届出鑑札ヲ所持スルモノハ之ヲ返納スヘシ

第二十一條 寄留地ニ於テ營業スルモノノ願届ハ渾テ其寄留地ノ郡役所ヘ差出スヘシ(但甲郡役所ニ於テハ乙郡役所ヘ本人納稅濟否通知スヘシ尤甲郡役所ヨリ通知無之ハ乙郡役所ヨリ甲郡ヘ照會スヘシ)

第二十二條 他郡内ニ支店或ハ出張店ヲ設ケ開業スルモノハ居住地戸長ノ保証書ヲ受ケ開業地郡役所ヘ(願届)ニ添ヘ差出スヘシ

第二十三條 第十一條以下ニ係ル願届其他ノ書式ハ附録第二號ヨリ第九號迄ニ照準スヘシ

第三則 雜則

第二十四條 諸市場ニ於テ物品ヲ競賣スルハ營業稅雜種稅規則第一

則第二條第三項ニ記載アル種類ニ限ル若シ之レニ類似ノ物品ヲ競賣セント欲スルモノハ其物品及賣買ノ方法申合規則等ヲ具ヘ郡役所ヘ願出ヘシ果シテ弊害ナシト看認ムル者ハ之レヲ許可スルコトアルヘシ

第二十五條 藝妓幫間俳優遊藝稼人營業ハ其情實止ムヲ得サルニ出ルモノニ非サレハ之レヲ許サス

第二十六條 營業稅雜種稅規則第一條第二條ニ記載スル諸營業人ニシテ行商并ニ出職ヲ爲スモノ及左ニ掲クル諸營業人ハ一人(乘馬一頭)毎ニ鑑札ヲ申受クヘシ鑑札所持セサルモノハ行商并出職及ヒ其營業ヲ爲スヲ得ス(但本文鑑札ハ之レヲ賣買シ若クハ貸借スルヲ得ス)

- 一 遊藝師匠
- 一 遊藝稼人
- 一 藝妓
- 一 幫間
- 一 相撲
- 一 相撲行司
- 一 俳優
- 一 乘馬

第四則 税金徴收

第二十七條 營業稅雜種稅規則第一則第一條第二條ニ掲クル諸營業ノ税金ハ卸賣其他賣上及紹介収益上リ高等ニ依リ課稅スルモノハ其金高届書ノミ差出置郡役所ノ指揮ニ依リ上納スヘシ其他ハ納期ニ上納スヘシ且新出願ノ上許可ヲ得又ハ届出ノ上營業ヲナスモノハ其指令又ハ指揮ニ依リ上納スヘシ

第二十八條 渾テ年稅ト稱スルモノハ本年七月ヨリ明年六月迄ヲ一期トス其税金前半年分(本年七月ヨリ十二月マテ)ハ本年七月三十一日限後半年分(明年一月ヨリ六月マテ)ハ明年一月三十一日限上

納スヘシ

第二十九條 年税ニ係ルモノニシテ新規營業又ハ轉業廢業等徵收區ノ如シ左別

一年税(十二月以前廢業一月以後新營業)ノモノハ半額ヲ徵收シ(十二月以前新營業以後廢業)ノモノハ全額ヲ徵收ス

第三拾條 演劇諸興行ハ其出願ノ際見込日數ニ應シ税上納スヘシ若シ都合ニ依リ出願日數終ヘサル中閉止スルキハ其事情ヲ以過納ニ係ル金額下戻ノ儀出願スヘシ

第三十一條 遊覽所市場等臨時免許(假令ハ一時自園ノ草花ヲシテ衆人ニ觀セ見料ヲ得ル者或ハ牛馬市ノ如キ者)ヲ受クルモノハ閉場ノ際其税金上納スヘシ尤爲参照實際上リ高ヲ記載シタル帳簿相添

差出スヘシ(但牛馬市ノ如キハ其市立出願ノ者ヨリ徵稅スヘシ)

第三拾二條 月税ニ係ルモノニシテ新規營業又ハ轉業廢業等徵收區別左ノ如シ

一月十五日以前廢業ノモノハ半額ヲ徵收シ十五日以前新營業ノモノハ全額ヲ徵收ス(但當初營業願出ルキ本文ニ依リ其月ノ税金ヲ上納シ翌月ヨリハ五日限上納スヘシ)

第三十三條 屠畜及臨時免許ニ非ラサル市場遊覽所ノ税金甲月分ヲ乙月五日限リ上納スヘシ(但税金上納ノ節爲参照第一則第七條第八條ノ帳簿相添差出スヘシ)

第三拾四條 各營業者ニシテ他管内へ出稼旅行等ヲナスキハ明治十三年甲第廿五號布達ノ通納期ニ至リ必ス税金完納スヘキ負擔人ヲ

定メ被托者速署ノ上戸長役場へ届置然ル后出發スヘシ

營業稅雜種稅規則附錄諸書式

第一號 賣上取扱紹介収益上リ高等金高届書式

第一式 賣上取扱紹介収益等ノ金高

明治何年中賣上(取扱紹介収益)金高御届

一金若干

何々商

但明治何年一月ヨリ十二月迄一ケ年間賣上(取扱紹介収益)金高
右之通相違無之候間此段御届仕候也

郡町(村)番地身分

卸小賣營業或ハ何々營業

年月日

何 某印

又ハ

郡町(村)番地寄留

郡町(村)番地身分

何々營業

何 某印

何郡長何某殿

前書届出ノ金高勘査ノ上相違無之ト看認候ニ付與書加印仕候也

戸長

年月日

何 某印

第二號 營業願書式
遊藝師匠遊藝稼人藝妓幫間相
樸相撰行司俳優乘馬ヲ除ク

第一式 諸營業

何營業願

私儀今般郡町(村)番地^{開店}又ハ場所ヲ定メサル^モハ今ニ於テ何營業致(度)候間(御廳許被下度)依之税金相添此段(奉願)御届仕候也

郡町(村)番地身分

年月日

何 某印

又ハ

郡町(村)番地身分

郡町(村)番地身分

何 某印

何郡長何某殿

戸長

年月日

何 某印

支店(出張店)ヲ設何營業願

私儀何郡町(村)番地ニ於テ何營業致居候處今般當郡町(村)番地へ支店(出張店)ヲ置郡町(村)番地身分何某ヲ以部理代人ト爲シ何營業致度候間(以下同斷)

郡町(村)番地身分

何 某印

右部理代人

郡町(村)番地身分

何 某印

年月日

何郡長何某殿

不詳 第一 二

年月日 戸長 何 某印

第三號 代人替改名轉宅屆書式

第一式 代替(代人替)

代替(代人替)御届

私父(兄)何某儀(又ハ私儀何某ヲ以部理代人ト爲シ)郡町(村)番地ニ於テ何營業致居候處今般病死(退隱)仕候ニ付私相續(何某ヲ以部理人ト爲シ)營業仕候間此段御届仕候也

郡町(村)番地身分 某跡相續 何 某印

年月日 何 某印

又ハ

郡町(村)番地身分 何 某印

右部理代人

郡町(村)番地身分

何 某印

何郡長何某殿

戸長

何 某印

第二式 改名

改名御届

新 甲 〇百一十

私儀郡町(村)番地ニ於テ何營業致居候處今般願濟ニ依リ某ト改名仕候間此段御届仕候也

郡町(村)番地身分

某改名

年月日

何 某印

何郡長何某殿

戸長

年月日

何 某印

第三式 轉居

轉居御届

私儀是迄郡町(村)番地ニ於テ何營業致居候處今般郡町(村)番地へ轉

居營業仕候間此段御届仕候也

郡町(村)番地身分

年月日

何 某印

何郡長何某殿

戸長

年月日

何 某印

第四號 行商出職鑑札申請書式

第一式 行商出職

行商(出職)鑑札御下渡願

私儀郡町(村)番地ニ於テ何營業致居候所尙行商(出職)致度候間御鑑札御下渡被下度此段奉願候也

年月日

郡町(村)番地身分

何郡長何某殿

何 某印

年月日

戸長

何 某印

第二式 雇人行商出職

一雇人行商出職 鑑札御下渡願

郡町(村)番地身分

何某雇人

何 某

全

何 某

私儀何營業致居候處豫テ御届有之前書ノ雇人ナシテ行商出職爲致度候間御鑑札御下渡被下度此段奉願候也

郡町(村)番地身分

年月日

何 某印

何郡長何某殿

戸長

年月日

何 某印

第五號 遊藝師匠相撲相撲行司乘馬營業願書式

何營業願

私儀今般何營業致度候間御聽許ノ上御鑑札御下渡被下度依之税金相添此段奉願候也

郡町(村)番地身分

又ハ

郡町(村)番地身分

何某幾男女(父母兄弟姊妹)

年月日

何 某印

何郡長何某殿

戸長

年月日

何 某印

第六號 藝妓習間俳優遊藝稼人營業願書式

第一式 當縣下ノ者諸營業

何營業願

私儀今般何々(其情實ヲ明記ス)ニ付何營業致度候間御聽許ノ上御鑑
札御下渡被下度此段奉願候也

郡町(村)番地身分

何某幾男女(父母兄弟姊妹)

年月日

何 某印

右身元保証人但(藝妓營業願ニ限ル)

何某(願人ヲ云)父母兄弟

何 某印

何郡長何某殿

前書願之趣取糺候處事實相違無之ニ付奥書加印仕候也

戸長

年月日

何 某 印

第二式 他管下ノ者諸營業

何營業願

私儀今般何々(其情實ヲ明記ス)ニ付當御縣下郡町(村)番地身分何某方(寄留ノ上私儀當御縣下郡町(村)番地身分何某方(寄留罷在候所今般何々(全上)ニ付何營業致度候間御聽許ノ上御鑑札御下渡被下度(依テ身元引請証書相添)(藝妓營業ニ限ル)此段奉願候也

郡町(村)番地身分

何某方寄留

何府縣郡町(村)番地身分

何某幾男女(父母兄弟姊妹)

年月日

何 某 印

何郡長何某殿

前書之趣(以下同前)

戸長

年月日

何 某 印

第七號 他管下婦女藝妓營業ニ付身元引請書式

何某身元引請証

何府縣郡町(村)番地身分何某幾女(姊妹)何某儀今般私方(寄留ノ上(兼テ私方(或ハ當町村番地何某方(寄留罷在候處今般)藝妓營業願上候ニ付全人身分ノ儀ハ私引請御規則等堅ク爲相守可申日税金ノ儀期日上納不致ハ是亦私引請上納可仕依之証書差上候也

郡町(村)番地身分

年月日

何郡長何某殿

何 某印

戸長

何 某印

年月日

第八號 廢業届書式

第一式 藝妓幫間ノ廢業

廢業御届

私儀是迄何營業致候處今般廢業仕候間(鑑札ヲ所持スル者ハ何々御鑑札何枚相添ノ數字ヲ加フ)此段御届仕候也

肩書營業願ニ同シ

年月日

何郡長何某殿

何 某印

戸長

何 某印

年月日

第二號 藝妓幫間廢業届

藝妓廢業御届

私儀是迄藝妓(幫間)營業罷在候處本日限リ廢業仕候間(税金並ニ)御鑑札相添此段御届仕候也

肩書營業願ニ同シ

年月日

何郡長何某殿

何 某印

年月日

戸長

何 某 印

第九號 鑑札毀損(亡失)ニ付再度申受願書式御鑑札再度御下渡願

第何號 鑑札ノ番
號ヲ云フ

一何營業(行商)(出職)御鑑札

何 札

右ハ何々 水火盜難過誤ニテ毀ニ付更ニ御下渡被下度依之手續書(並
ニ毀損御鑑札)相添此段奉願候也

肩書營業願ニ同シ

年月日

何 某 印

何郡長何某殿

年月日

戸長

何 某 印

第十號 看板寸法書式

寸法

竪二尺三寸

幅六寸五步

但曲尺

書式

明治何年何月何日付届

何々商營業

明治何年何月何日檢

戸長
役場印

何 某

「檢印以下之」ニ做フ

明治何年何月何日免許
 何々 營業

何 某

明治何年何月何日届

何々 無 稅 營業

何 某

賣上紹介取益收入等ノ金高規則ノ成限ニ滿サル
モノ及規則第七八條ニ依リ特ニ免稅シタルモノ

○甲第一百號 六月三十日

○甲第九號 六月三十日

明治十六年度地方稅ノ内地租割及戸數割稅徵收規則客年縣會決議ヲ
據置別紙之通相定ム 右布達候事

地租割及戸數割稅徵收規則

第一章 地租割稅

第一條 地租割稅徵收額ハ別段ノ布達ヲ以テ之レヲ定ムルモノトス

第二條 備荒儲蓄金ヲ以テ地租ノ補助若シクハ貸與ヲ受ケタル者ハ

其年ノ地租割稅ヲ免除ス（但已徵收シタル者ハ下戻サ、ル者トス

第三條 地租割稅徵收ノ後ハ假令該年度中地所荒蕪トナリ免租ノ場

合ニ至ルト雖モ既ニ徵收シタル分ハ下戻サ、ルモノトス

第二章 戸數割稅

第四條 戸數割稅ハ毎戸現住者ヨリ徵收ス其額ハ別段ノ布達ヲ以テ之ヲ定ムルモノトス

第五條 戸數割稅ヲ徵收スヘキモノ左ノ如シ一本籍寄留ト戸主非戸主ヲ問ハス總テ一戸ヲナスモノ

一 甲乙同居ノ名有ト雖其實共居同爨セス各一戸ノ体裁ヲナス者
第六條 官ノ救助ヲ受クルモノハ其季ノ戸數割稅ヲ徵收セサルモノトス(但己ニ徵收シタルモノハ下戻サ、ルモノトス)

第七條 戸數割稅ハ戸數ニ應シ各町村ノ額ヲ定ムト雖モ之ヲ各戸ヨリ徵收スルハ貧富ヲ酌量スルモ妨ナシトス

第八條 前條貧富ヲ酌量スルノ方法ハ其町村會ニ於議定スル者トス
○甲第一百號 六月三十日

明治十六年度地方稅ノ内地租割及戸數割ノ兩種エ地租割ハ其筋ノ指揮ヲ請ケ戸數ハ縣會決議ニ依リ左ノ通賦課ス

一 地租割

地租金壹圓ニ付金貳拾四錢貳厘

一 戸數割

壹戸ニ付金拾八錢

右布達候事

○甲第一百一號 六月三十日

明治十六年度地方稅ノ内地租割及戸數割稅徵收期限左之通相定ム

一 地租割稅徵收期限

第一期

七月一日ヨリ
全月十五日限

第二期 十一月一日ヨリ
十二月十五日限

一 戸數割稅徵收期限

上半期 九月一日ヨリ
十月卅一日限

下半期 一月一日ヨリ
二月廿八日限

右布達候事

○甲第百十二號

三月十六日

備荒儲蓄施行規則及明治十六年度收支豫算縣會ノ議決ヲ取リ其筋ノ許可ヲ得別冊ノ通相定ム

右布達候事

備荒儲蓄施行規則

第一章 總則

第一條 備荒儲蓄金ハ政府ヨリ下附セララル、モノヲ配附金トシ人民

ヨリ聚儲スルモノヲ公儲金トシ之ヲ合セテ儲蓄金トス

第二條 前條ノ儲蓄金ハ儲蓄金ハ支出金ノ二種ニ分テ、毎年縣會ニ於

テ議決シタル支出豫算金ヲ引去リタル殘額ヲ以テ、公儲金ノ定額トス

第三條 支出豫算ニ殘餘ヲ生スルハ翌年度ニ繰越シ如シ不足ニ及
フキハ儲金ノ内ヨリ補充スルモノトス

第二章 蓄積

第四條 儲金ハ利子付公債証書ニ交換シ蓄積スルモノトス

第五條 從來蓄積セシ米穀ハ年ノ豊凶ヲ量リ賣却シ新穀ヲ購收スル
コアルベシ

第六條 蓄積セシ公債証書ノ利子及貸與返納金前年度繰越金其他諸
収入金等ハ總テ公債証書ニ交換シ蓄積スルモノトス

第三章 收入

第七條 公儲金ハ前年度地租額ニヨリ徵收ス其額ハ縣會決議ノ上之
ヲ定ルモノトス

第八條 前條ノ公儲金ハ毎年十月三十一日限り納附スルモノトス

第九條 儲蓄金ヨリ給與補助貸與ヲ受クル者ハ其年度ノ公儲金ヲ徵収セサルモノトス(但既ニ徵収セシモノハ返付セサルモノトス)

第十條 公儲金不納處分又ハ免除等ヨリ缺額ヲ生シ配附金高ヨリ不足スルハ翌年度ニ於テ一般ニ賦課シテ之ヲ補充スルモノトス

第四章 支給

第十一條 非常ノ凶荒又ハ水火風震ノ難ニ及ヒ流行病ニ罹リ親戚隣保ノ救助スルモノナクシテ一時生計ヲ失フモノ左ノ制限ニ仍リテ支給ス

第一食料ハ一人一日米ハ三合麥ハ六合雜穀ハ九合ノ割ヲ以テ日數三十日以内之レヲ給ス非常ノ災害ニ罹リタル者ハ臨時焚出ヲ

與フルハ一人一食米一合五勺トス尤其日數十日以内タルヘシ

第二小屋掛料ハ家屋ヲ亡失シ自ラ小屋掛ヲナスヘキ質力ナキ者

ニ限り家族八人以上ノ者ハ一戸金拾圓七人以下五人以上ノ者ハ

一戸金八圓四人以下ノ者ハ一戸金六圓ヲ給ス風震及半燒ノ火災

ニ罹タル者ハ各半額ヲ給ス尤借屋居住及同居ノ者ハ此限ニ非ス

但非常ノ災害ニテ臨時避難所ヲ設クルハ自家又ハ借家及ヒ同居ノ者ヲ間ハス其費用(食料ヲ除ク)實費ヲ支辨ス

第三農具料種穀料ハ本法制限(貳拾圓)以内ニテ農ヲ本業トスル

モノニ限り之レヲ給ス(但農具料ハ其亡失スル鋤鎌馬鋤稻扱麥

扱肥桶等直接耕耘ニ關クヘカラサルモノニ限り代價ヲ積リ種穀料ハ(米麥粟黍稗食用ニ供スル芋)其亡失スル種穀ノ代價ヲ積リ

各之ヲ給ス

第十二條 非常ノ災害ニテ焚出シテ給シ臨時避難所ヲ與ヘタルモ尙生存スルコト能ハサル者ニハ既ニ給助セシ日數及金額ヲ通算シ前條ノ制限ニ仍リ食料或ハ小屋掛料ヲ給スルモノトス

第十三條 第十一條第十二條ノ救助ヲ願出ツルモノハ罹災ノ實況ヲ具シ災害ニ罹リタル日ヨリ十日以内ニ其町村戸長ノ與書ヲ請フヘシ戸長ハ各本條ニ依リ事實ヲ審査シ同二十日以内ニ郡役所又ハ縣廳へ進達スヘシ

第五章 地租金貸與補助及返納

第十四條 地租ヲ補助及貸與スルハ罹災ノ爲メ土地家屋ヲ賣却スルニ非ラサレハ地租ヲ納ムル能ハサル者ニ限ル

第十五條 地租ノ貸與或ハ補助ヲ受ケントスル者ハ前條相違ナキ旨戸長〔在籍地元〕〔町村トモ〕保証ヲ得テ願出實地檢査ヲ受クヘシ

第十六條 前條願出ヲ爲シタル中ハ實地檢査濟ノ日マテ本人所有ノ地所悉皆〔質入地ヲ除ク〕録入等ハ勿論其實況ヲ變換スヘカラス但災害ノ他ニ及ハントスルヲ防クカ爲メ止ムヲ得ス實況ヲ變換スルハ此限ニ非ス

第十七條 前條ニ依リ實地檢査ノ上ハ其納ムル能ハサル地租金ヲ貸與ス若シ貸與金返納未濟中猶災害ニ罹ルモノハ前〔返納未濟〕後〔ノ金額〕ヲ通算シ本人地租金高ニ滿ツル迄ハ之ヲ貸與シ地租金高ヨリ超過スルモノハ其超過セシ金員ヲ給助スルモノトス

第十八條 貸與金ハ總テ無利息トシ其貸與ヲ受ケタル翌年ヨリ毎年

十二月中本人地租金高十分ノ一宛返納スヘシ若シ返納未済中尙災
害ニ罹リ貸與或ハ給與ヲ受クル中ハ年賦ヲ操下ケ其翌年ヨリ返納
スルモノトス

第十九條 貸與金返納未済中本人所有地ノ全部又ハ幾分ヲ賣却スル
中ハ戸長公証ノ日ヲ以テ其地ニ相當スル貸與金一時ニ返納スヘシ
第二十條 貸與金返納未済ノ地處生存者ノ家督相續又ハ死亡者遺囑
ノ贈遺等ニ由テ讓渡タル分ニ總テ讓請人ニ於テ貸與金返納ノ義務
ヲ繼續スルモノトス

第二十一條 貸與ヲ受ケタル地所罹災ノ爲メ荒蕪トナリ或下半年季ヲ
受ケタル者ハ其貸與金ヲ棄損スヘシ

第六章 雜則

第二十二條 儲蓄金ノ内差向支辨ノ見込ナキ金額ハ銀行ヘ定期預ケ
ヲナスコアルヘシ

第二十三條 前條定期預ケヲナス中ハ公債証書ノ抵當ヲ以左ノ銀行
ヘ便宜之ヲ預ルモノトス

川石第二十九國立銀行 松山第五十二國立銀行

高松第百十四國立銀行 西條第百四十一國立銀行

第二十四條 儲蓄金穀ノ出納及管守ハ縣廳ノ主管ト雖モ分儲穀物及
食廩ハ其所在ノ郡役所並ニ戸長役場ニ於テ干與スルモノトス
第二十五條 儲蓄金収支ノ種目左ノ如シ

収入ノ部

公儲金 配附金 中央補助金 前年度欠額 米穀賣却益金 公債
公儲金補充

証書賣却益金 公債証書利子金 預ケ金利子 地租貸與返納金
米穀貸賣却代 公債証書賣却代 雜収

支出ノ部

火災救助 食料 小屋掛料 農具料 {風水震
種穀料 地租補助 地租貸與 }
米穀賣却損金 公債証書賣却損金 藏敷料 藏番給 運送費 米穀
買入代 公債証書買入代 雜出

第二十六條 罹災ノ窮民へ給與スル食料其他穀物ヲ金ニ換ヘ支給セ
ントスルトキハ其郡役所々在地ノ前月平均相場(種穀ハ上其他ハ
下)ニ因ルモノトス(但立相場ナキ雜穀ハ罹災者居村前月相場ヲ
用ユルモノトス)

第二十七條 地租ノ貸與或ハ補助ヲ受クル際其地ノ收穫米ヲ以テ地

租金ニ比較スルハ其年八月其郡ノ平均相場(上中下)ヲ用ユルモノ
トス

第二十八條 儲蓄金出納ハ年度ノ末ヲ以テ閉鎖シ之レヲ精算シテ翌
年ノ縣會ニ報告スルモノトス(但本文閉鎖ノ場合ニ於テ年度豫算
中未着手ノモノ及翌年度へ跨ル事業ハ其金額ニ限り翌年度ノ豫算
ニ編入シ該年度ニ於テ結了ス)

第二十九條 此規則ハ向來改正ノ見込アルニ非サレハ年々据置クモ
ノトス

明治十六年度備荒儲蓄金收出豫算

一金六萬四千八百六拾圓八拾三錢六厘 收 入

此 譯

金三万貳千五百六拾四圓八拾三錢六厘 公 儲 金
 金三万貳千貳百九拾六圓 配 附 金
 一金六萬四千八百六拾圓八拾三錢六厘 支 出

此 譯

金五千貳百六拾八圓

罹 災 救 助

金六百九拾九圓

雜 出

金五万八千八百九拾三圓八拾三錢六厘

公 債 証 書 買 入 代

○ 甲 號 正 誤

五 丁	裏面	七 行	六十七條ノ下語ハ(諸)ノ誤
六 丁	表面	十 行	第七十七條ノ下(遠)ノ一字ヲ除ク
七 丁	裏面	八 行	割註本條ノ下増如ハ(増加)ノ誤
十五 丁	表面	八 行	免狀ヲノ下(受)ノ一字ヲ加フ
同 丁	裏面	七 行	其ノ下證出ハ(證書)ノ誤
廿一 丁	表面	八 行	モノヲノ下該ハ(試)ノ誤
四十七 丁	表面	九 行	尤其ノ下仕ハ(任)ノ誤
六十 丁	裏面	十 行	生糸ノ下線ハ(綿)ノ誤
六十六 丁	表面	十 行	運轉ノ下方ハ(力)ノ誤
六十八 丁	裏面	十 行	發明ヲ爲シノ下彌ハ(大)ノ誤
七十三 丁	表面	十 行	直ノ下租ハ(組)ノ誤
同 丁	裏面	三 行	付ノ下藥ハ(機)ノ誤
九十九 丁	表面	五 行	縣會ノ下(決)ノ一字ヲ加フ
百十六 丁	裏面	二 行	如シ左別ハ(別左ノ編)ノ誤植
百廿七 丁	表面	二 行	月數ノ下(割)ノ一字ヲ加フ

